ヨーロッパ建築ゼミナール編

ヨーロッパ 建築 600選

工業調査会

2015.10.6

エジプト・オリエント・エーゲ海・ギリシア

縄文時代

B.C. 3000年

エジプト統一国家成立
サッカラの階段状ピラミッド
ギザのピラミッド群
スフィンクス
メントゥホテップII世葬祭殿

2000年

クノッソス宮殿
クレタ文明黄金期
ハトシェプスト女王葬祭殿
アブ・シンベル大神殿
王家の谷
アモン大神殿

1000年

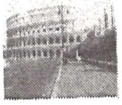
第1回オリンピア競技開催
パルテノン神殿
リュシクラテスの記念碑
アテネのアゴラ址
ポンペイの秘儀荘
メゾンカレ

共和政ローマ・帝政ローマ

弥生時代

A.D. 1世紀

ガールの水道橋
ローマの大火
ヴェスビオ火山噴火、ポンペイ埋没
コロッセオ
ティトゥスの記念門



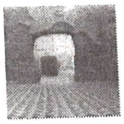
2世紀

トライアヌスのバジリカ
トライアヌスの円柱
ローマ帝国の版図最大
ローマのパンテオン
ゼウス・オリンピウス神殿
ハドリアヌスの離宮

登呂の竪穴住居

3世紀

セプティミウス・セヴェルスの記念門
カラカラの浴場



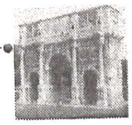
初期キリスト教

古墳時代

4世紀

コンスタンティヌスのバジリカ
キリスト教公認
コンスタンティヌスの記念門
ゲルマン民族大移動開始
ローマ帝国東西分離
サン・ロレンツォ・マッジョーレ

大和朝廷の成立



5世紀

サンタ・マリア・マッジョーレ
ガルラ・プラキディアの廟
ラテラノの洗礼堂
西ローマ帝国滅亡

ビザンチン・イスラム

飛鳥時代

6世紀

ハギア・ソフィア
サンタポリナーレ・ヌオーヴォ
サン・ヴィターレ
サンタポリナーレ・イン・クラッセ

仏教伝来

7世紀

イスラム教成立
サンファンの聖堂

大化の改新

奈良時代

8世紀

ダマスクスの大モスク
コルドバの大モスク

法隆寺金堂、五重塔
薬師寺東塔
平安京に遷都

ロマネスク

平安時代

9世紀

カルル大帝戴冠
アーヘン宮廷礼拝堂
ザンクト・ガレンの修道院

10世紀

神聖ローマ帝国成立

醍醐寺五重塔

11世紀

ラ・トリニティの聖堂
ノルマンのイングランド征服
サンテチェンヌ聖堂
サン・マルコ寺院
サン・セルナン
十字軍開始
ロンドン塔

平等院鳳凰堂
院政開始

12世紀

サン・ミニアート・アル・モンテ
ピサ大聖堂
ダラム大聖堂
サン・ドニ大聖堂内陣
マリア・ラーハ修道院

中尊寺金色堂
平氏滅亡
三十三間堂
東大寺南大門

ゴシック

鎌倉時代

13世紀

ル・トロネ修道院聖堂
ウォルムス大聖堂
サント・シャペル
パリ大聖堂
シャルトル大聖堂
アッシジのサン・フランチェスコ聖堂
ソールズベリー大聖堂
アミアン大聖堂
ランス大聖堂

厳嶋神社

南北時代

14世紀

カンポ広場、シエナ市庁舎
百年戦争開始
イーリ大聖堂
ピサの鐘塔(斜塔)
グロスター大聖堂
シエナの大聖堂
アルハンブラ宮殿

室町幕府成立
金閣

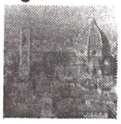
ルネッサンス

室町時代

15世紀

フィレンツェ大聖堂のドーム
カ・ドロ
オスペダーレ・デッリ・インノチェンティ
東ローマ帝国滅亡
サント・スピリット聖堂
パラッツオ・メディチ
パラッツオ・ヴェンドラミニ
サン・マルコ広場、パラッツオ・ドゥカーレ
パラッツオ・デッラ・カンチェルレリーア

興福寺五重塔
銀閣



16世紀

テンピエット
ウエストミンスター修道院・ヘンリ7世礼拝堂
フォンテンブロー城
シャンボール城
パラッツオ・ファルネーゼ
サン・ロレンツオ聖堂附属図書館
ルーブル宮殿起工
ミラノ大聖堂
カンピドリオ広場
テアトロ・オリンピコ
ハイデルベルグの城館

大仙院本堂
ザビエル、キリスト教布教
室町幕府滅亡
豊臣秀吉 全国統一
松本城

安土桃山時代

バロック / ロココ / ネオクラシシズム ピクチャレスク 世紀末 他 / 近代

江戸時代

17世紀

バンケッティングハウス・ホワイトホール
サン・ピエトロ大聖堂

サン・カルロ聖堂
パラッツォ・バルベリーニ
ソルボンヌ聖堂
ヴォー・ル・ヴィコントの邸館
ロンドンの大火
バチカン宮殿のスカラレジア
セント・スティーヴン聖堂
ハンプトン・コート宮

関が原の戦い
徳川家康・江戸幕府を開く
姫路城
桂離宮

日光東照宮

18世紀

セントポール大聖堂

ドーム・デ・ザンヴァリッド
フラウエンキルヘ
ザンクト・ヨハン・ネポムク聖堂
ニュンフェンブルグ宮
トレビの泉
ベルサイユ宮

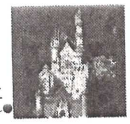
ロイヤル・クレセント
コンコルド広場
最初の鋳鉄の橋（コールブックデール）
フランス革命
パリのパンテオン
ブランデンブルグ門

東大寺金堂（大仏殿）

19世紀

エトワールの凱旋門

大英博物館
モリスの赤い家
イギリス国会議事堂

アルバート・メモリアル
パリのオペラ座
電灯の発明
ヴォティーフキルヘ
サグラダ・ファミリア聖堂起工
ノイシュヴァンシュタイン城

エッフェル塔

セセッシオン館

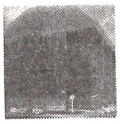
明治時代

大浦天主堂
江戸幕府終わる
日清戦争
日本銀行本店

1900年代

アムステルダムの証券取引所

ウエストミンスター大聖堂
フランクリン通りのアパート
ポンテュー街のガレージ
ウイーンの郵便貯金局

ヘッセン大公成婚記念塔
A.E.G.タービン工場

グラスゴー美術学校

赤坂離宮

1910年代

カサミラ

シュタイナー邸
ヴイットリオ・エマヌエルII世記念堂
ファグス靴工場
シャンゼリゼ劇場
世界第1次大戦勃発
オルリーの飛行船格納庫
サクレ・クール寺院

大正時代

東京駅

1920年代

ル・ランシーの教会堂
ストックホルムの市庁舎

アインシュタイン塔
デッサウのバウハウス

旧帝国ホテル
関東大震災

近代

昭和時代

1920年代

ゲーテアヌム
CIAM発足
バルセロナ万国博覧会ドイツ館

同潤会青山アパート

1930年代

サヴォワ邸

スイス学生会館
カサ・デル・ファッショ
パイミオのサナトリウム
ロンドン動物園のペンギンプール
シャイヨ宮
森の火葬場

築地本願寺
二・二六事件
国会議事堂
東京帝室博物館

現代

1940年代

第2次世界大戦勃発
E.U.R. 文化宮殿
第2次世界大戦終戦

広島・長崎に原爆投下

昭和時代後期

1950年代

ローマ駅
マルセイユのユニテ
ロンシャン教会

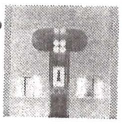
シュトゥットガルトのテレビ塔
バランザーテの教会
オリベッティのショールーム
トーレ・ヴェラスカ

ピレリービル
ローマのスポーツ・大パレス

朝鮮動乱起こる
日米安全保証条約調印
広島平和記念資料館
日本住宅公団発足
香川県庁舎
スカイハウス
東京タワー

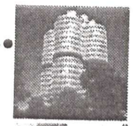
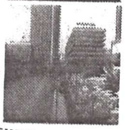
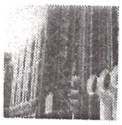
1960年代

ラ・トゥーレットの修道院

ハーレンの集合住宅
ベルリンフィルハーモニー
太陽道路の教会
レスター大学工学部
レッティ・ローソク店

ケンブリッジ大学歴史学部図書館
オタニエミ工科大学
人類月面第一歩

東京文化会館
東京オリンピック開催
国立屋内総合競技場
京都国際会館

1970年代

ガララテーゼの集合住宅
B.M.W.本社

タルマットの集合住宅
バービカン再開発

シュリン宝石店
テムズミード
ウオールデン7
ポンピドー・センター
ルーヴァン・カトリック大学医学部学生寮

リオーラ教区センター

大阪万国博覧会開催
沖縄本土復帰
オイルショック
親和銀行本店
住吉の長屋

1980年代

英国ルノー部品発送センター
アブラクサスの宮殿

ピカソのアリーナ
シュトゥットガルト国立美術館
フランクフルト装飾工芸美術館
ロイズ・ビル

オルセー美術館

ドックランド再開発着工
アラブ世界研究所
バスチーユのオペラ劇場
テット・デファンス

ル・グラン・ルーブル

つくばセンタービル
ヤマト・インターナショナル
日本コンベンションセンター（幕張メッセ）

平成時代

1990年代

バルセロナのオリンピックスタジアム

東京都新庁舎

（後藤）

1．エジプト建築（EGYPTIAN ARCHITECTURE）

B.C.3000年頃からローマ期に至る古代エジプトの建築。主要な建築は、マスタバ（台形墳墓）に始まりピラミッドに代表される葬送記念建造物から岩窟墳墓をへて壮大な石造神殿へと発展した宗教的な施設であるが、アーチやヴォールト構造をとらず、柱と梁によるまぐさ構造と持ち送り積みによるヴォールト構造を用いている。外的な刺激に乏しく、自律的発展に委ねられていたために、発展のテンポは緩慢であったが、簡明な形態を圧倒的な量塊で表現することにより、不滅の記念性を美事に実現している。

これに対し、住宅、宮殿等の世俗の施設は、日干レンガで造られた。

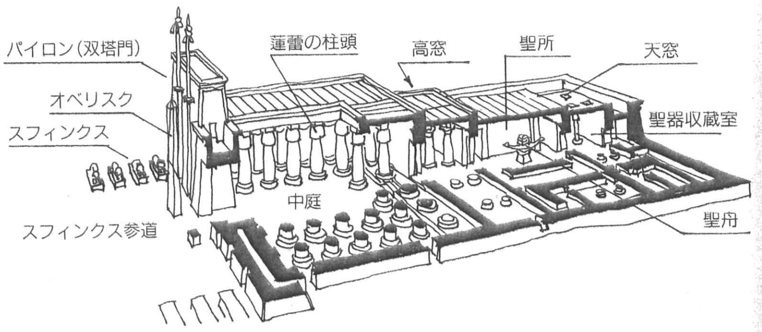


図１　エジプトの神殿

2．ギリシア建築（GREEK ARCHITECTURE）

エーゲ海文明を継承しながら独自の発展・完成を見せた古代ギリシアの建築。エーゲ海文明は、クレタ島を中心に栄えたミノス文化と、これを継承しながらギリシア人がギリシア本土に建設したミケナイ文化に分ける。これに続くギリシア文明は、アルカイック期（＝古拙期、B.C.800～B.C.479）、ヘレニック期（＝古典期、B.C.479～B.C.330）、ヘレニスティック期（＝汎ギリシア期、B.C.330～B.C.146）、に分けられ、さらにローマに継承された。

建築の中心は神殿である。始めは木造であったが漸次石造化した。

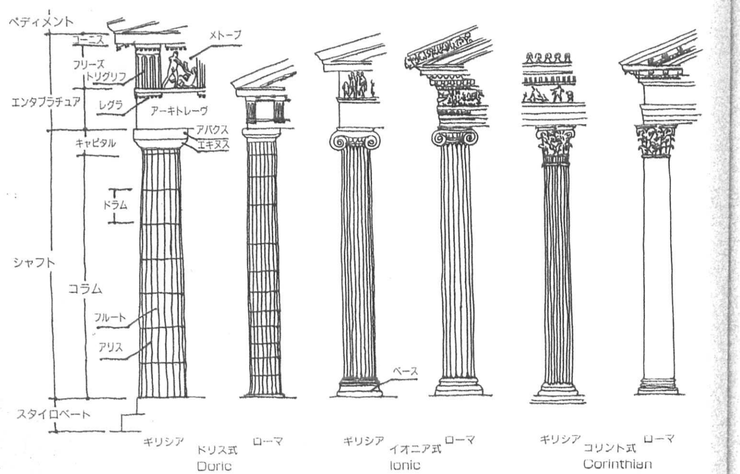


図２　古典建築のオーダー

ヨーロッパ建築小史

そのために、まぐさ構造を用い、屋根は木造の小屋組に瓦葺きである。

ドリス式、イオニア式、コリント式の３様式があるが、一見明快な輪郭に微妙な感覚表現を潜ませた古典美を完成させ、その後の西洋建築の範とされた。

3．ローマ建築（ROMAN ARCHITECTURE）

エトルリア建築を継承し、ギリシアの表現、オリエントの技術を総合して古代最高の建築文化を展開した古代ローマの建築。共和制時代（B.C. 6 世紀頃～B.C.27）、帝政時代（B.C.27～476）に大別されるが、帝政末期はキリスト教時代（313～）として区別される。

帝政時代が最盛期で、神殿、記念門等の記念建造物から宮殿、闘技場、浴場等各種の世俗の施設にわたる広範なテーマに壮大な建築文化を展開した。各地の技術を統合したすぐれた技術と、単純な法則に置き換えられた古典的な美学とが、広大な帝国の全域にわたって水準の高い均質な建築を実現させた。

4．初期キリスト教建築
(EARLY CHRISTIAN ARCHITECTURE)

古代ローマ帝国の末期、キリスト教の公認後に成立したキリスト教の建築。技術的な面からは、見るべきものはないが、後の西欧型教会堂の基本形式となるバジリカ形式（身廊と側廊が平行する奥行きの深い長軸型の平面を持ち、一段高い身廊の高窓から採光する形式）が確立され、古代的な有心空間に対して、有軸空間という新しい空間秩序が成立したところに大きな意味がある。

5．ビザンチン建築（BYZANTINE ARCHITECTURE）

東ローマ帝国（ビザンチン帝国）で行なわれたキリスト教の建築である。この文化は、古代ローマの文化を継承しているばかりではなく、ギリシアやオリエントの伝統を受け継いでおり、西欧とは異なった建築文化を成立させ、ギリシア正教の建築としてロシア、東欧諸国に伝播し、今日まで受け継がれている。その建築は、ペンディンティヴ・ドームという正方形の平面にドームを架ける技術によ

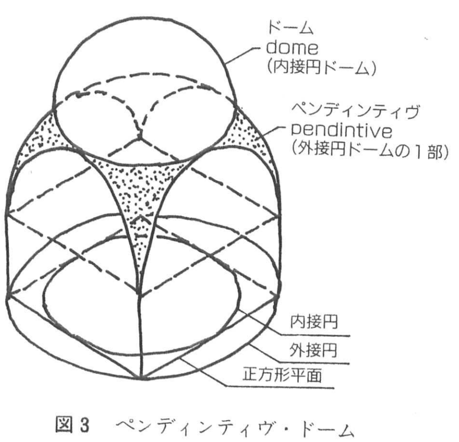


図３　ペンディンティヴ・ドーム

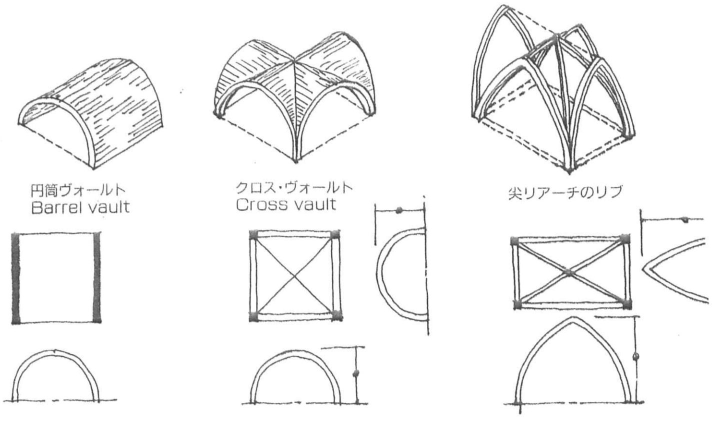


図4　ヴォールト

って特徴付けられるが、北イタリアのヴェネチア、ラヴェンナ等の諸都市はビザンチンとの関係が深く、ビザンチン建築が行なわれた。その結果、西欧中世の建築に大きな影響をおよぼした。

6．イスラム建築（ISLAMIC ARCHITECTURE）

7世紀に始まり、百年の間にインドからイベリア半島に至る大帝国を築いたイスラム教圏の建築。

イスラム教は、各地の建築様式をそのまま採用したので、宗教上の制約や、慣習的に定型化した形式のほかは、特定の様式を指すものではない。宗教的に偶像が禁止されているところから、彫刻的な装飾は用いられず、ドームやアーチ等の建築的なエレメントを装飾的に展開したり、アラベスクや唐草紋等の抽象的なタイル装飾に意を用いている。

イベリア半島や南イタリアを通じて、ヨーロッパの中世建築の成立に大きな影響を与えた。

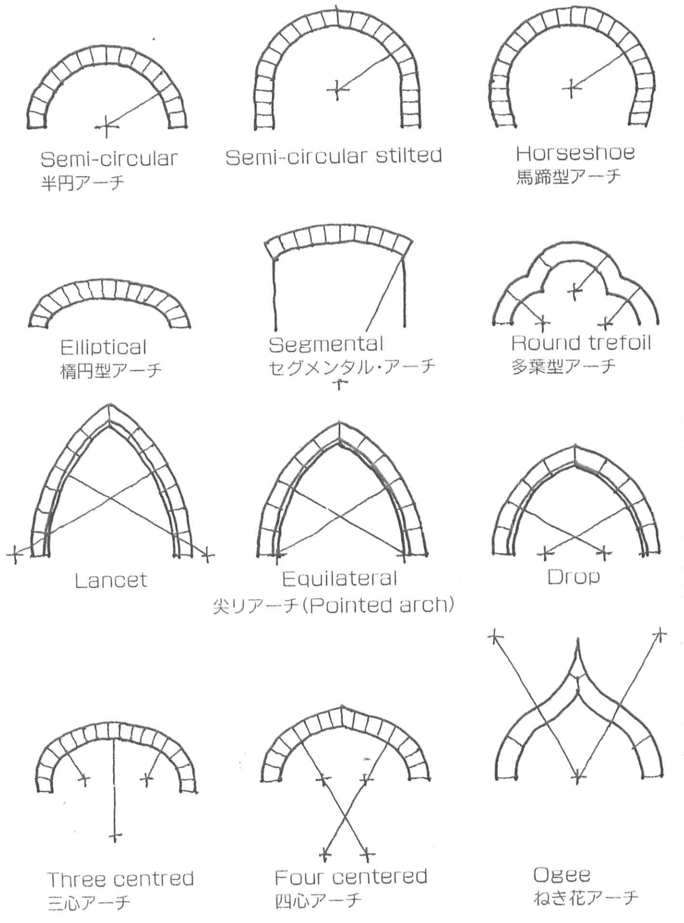


図5　アーチ図

7．ロマネスク建築（ROMANESQUE ARCHITECTURE）

11世紀、12世紀に西欧で行われた建築様式。語義的には、ローマ風の意であるが、各地各様の地方色を持ちながら、石造で完成されたキリスト教の建築である。表現的には、素朴な厚い壁、太い柱、小さい開口等の特徴をもつが、しいて典型を示せば、半円アーチのクロス・ヴォールトによるバジリカ形式の建築があげられる。イギリスではノルマン式と呼ばれる。ロマネスク建築の成立は、ビザンチンおよびイスラム建築に負っている。

8．ゴシック建築（GOTHIC ARCHITECTURE）

語義的には、「ゴート人の」という蔑称であるが、北フランスに始まり、ドイツ、イギリス等で一層の発展を見せた中世建築の高度に完成された様式。西欧全域に伝えられたが、中心は北部ヨーロッパである。尖りアーチ、リブ・ヴォールト、フライング・バットレスをゴシック建築の3要素というが、ロマネスク建築の中で個々に工

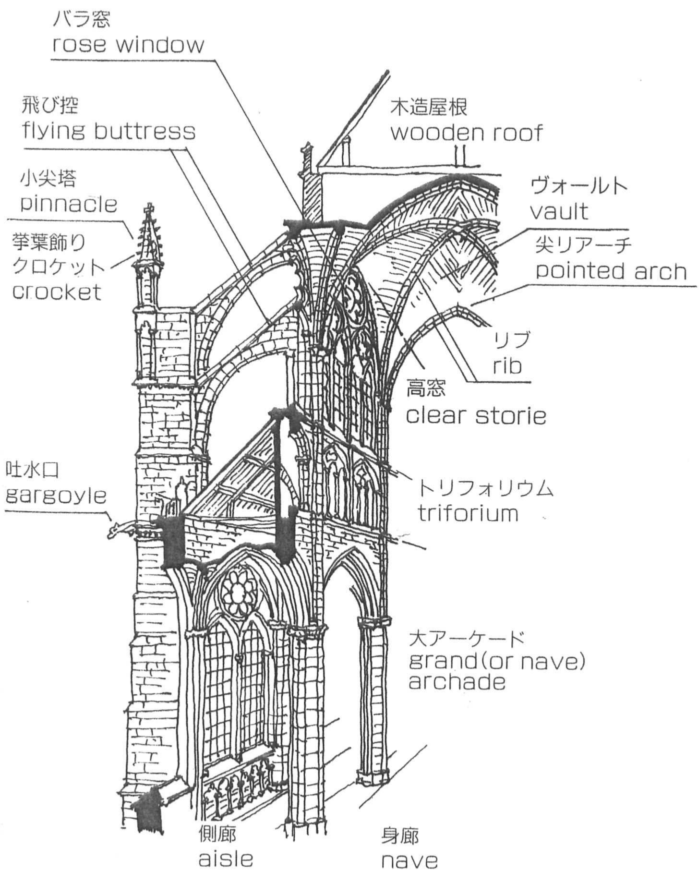


図6　ゴシック建築の構成（Amiens）

夫されてきたこれらの要素を縦横に駆使して、洗練され、石を石とも思わせないような上昇感の強い、天を衝く建築を作り上げた。古典的な比例を温存する北フランス、より強い上昇感を追求したドイツ、リブの装飾性を強調したイギリスなどそれぞれに地域色をもっている。

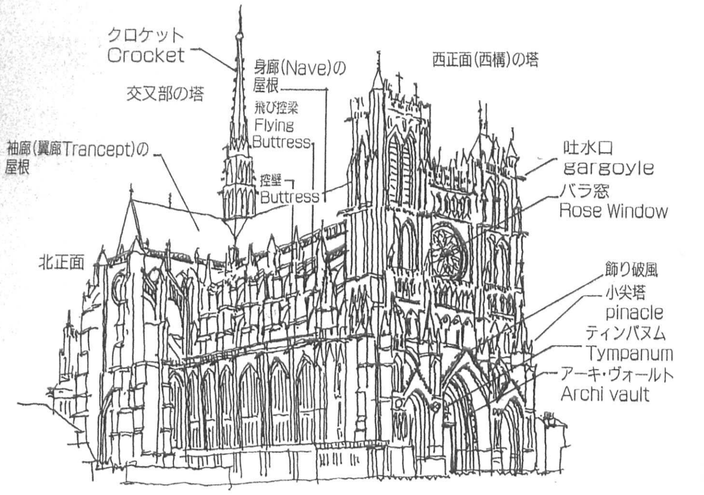


図7　アミアン大聖堂(Amiens)

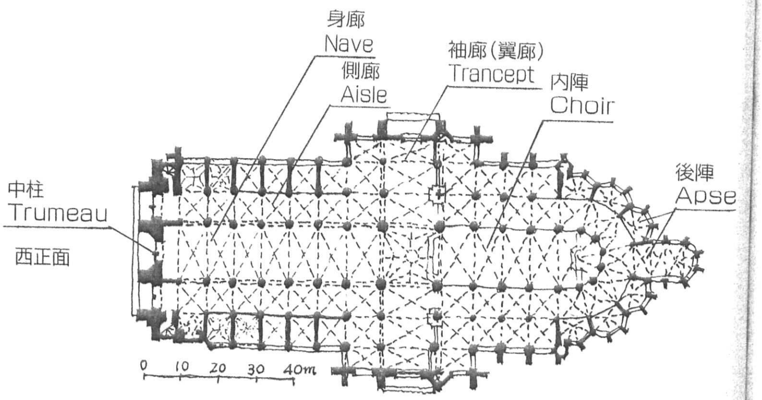


図8　アミアン大聖堂(Amiens)

9．ルネッサンス建築（RENAISSANCE ARCHITECTURE）

近世の始めに北イタリアで起こった建築。中世的束縛からの解放、人間性の回復を目指して、古典的世界の再生を理想に掲げたルネッサンスの運動は、新しい経済的秩序を背景にした文化大革命であったが、建築では15世紀の初頭、フィレンツェのF.ブルネルレスキに始まる。古典に範をとりながら独自の様式を形成したが、その盛期は短く、古典的な制約がかえって自家撞着を起こし、マンネリズム（マニエリスム・MANIERISME＝末期ルネッサンス）に陥る結果を招来した。所謂、マンネリズムという概念は、これに起因している。ルネッサンス建築は、イタリア的市民社会を背景にした都市建築であったため、他の地域ではほとんど純粋な形では受け入れられず、それぞれに国情にあわせて変形されて用いられた。

この時期から、それまで経験的な職人技術であった建築が、学術的な対象として科学的に探究されるようになり、そのような学識に基づく設計行為が独立して、今日的な建築家が誕生した。このことを含めて、この時期が、モダンという概念の出発点になっている。

10．バロック建築（BAROQUE ARCHITECTURE）

17世紀、ルネッサンスの宗教改革にたいするカトリックの反動が、当時の社会の豪奢な気風と結びついてイタリアに生まれた建築様式。ルネッサンスの古典的モチーフを継承しているが、その応用展開に、新境地を開き、躍動するファサード、ダイナミックな内部空間を産んだ。ファサードに数階を貫いて施された大オーダー、ファサードや構造とは全く無関係に内部空間をつくる木摺りスタッコ、錯覚を誘うトロンプ・ロイユ（騙し絵）、三重殻ドーム等の技法はバロック的なものである。ドイツはイタリアの影響下に、その民族性とあいまって、これを一層発展させ、さらに躍動する空間を展開した。イスラムの影響が強いイベリア半島も独特のバロックを展開した。フランスは、ルイ王朝の下でやや異なった展開を見せており、ルイ13世様式、ルイ14世様式等といわれる。

11．ロココ建築（ROCOCO ARCHITECTURE）

バロックに続いて18世紀のフランス宮廷のサロンを中心に展開した建築。バロックのものものしい男性的な表現に対して、ロカイユという独得な装飾を用い、曲線や曲面を用いて女性的で優雅な表現を意図した様式。外観にはあまり特徴がなく、主としてインテリアに意が注がれている。

12．リヴァイヴァル建築（REVIVAL ARCHITECTURE）

19世紀、近代の初めにあたって、新時代を模索するなかで各種の様式が再登場した。主として古典（ギリシア、ローマ）に範を求めた古典主義（CLASSICISM）、ゴシックに民族主義的な拠り所を求

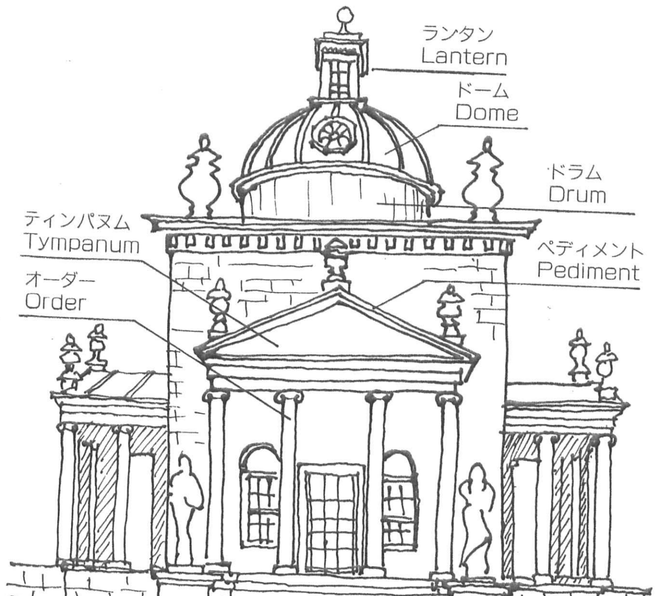


図9　ファサード図

めた浪漫主義（ROMANTICISM）、これらをとり混ぜた折衷主義（ECLECTICISM）に分けられる。このほか、異国情緒等の情緒的なところに拠り所を求めた様式にピクチュアレスクがある。

13．世紀末建築

19世紀末、新世紀の到来を前に各地で新しい様式が模索された。ウイーンのゼセッション(=SECESSION・Otto Wagner, M. Olblich)、ブリュッセルからパリに入り、一大ブームとなったアール・ヌーボー（=L'ART NOUBEAU・V. Horta, H.v.d.Verde)、アメリカのシカゴ派（=CHICAGO SCHOOL・H.L.Sallivan)、イギリスのグラスゴー派（=GLASGOW SCHOOL・C.R.Mackintosh）等がある。有機的な形態や装飾を用いたところに共通点がある。バルセロナのガウディもこのような流れの中にある。

14．近代建築（MODERNISM ARCHITECTURE)

20世紀の10年代に準備され、20年代に確立、30年代以降を支配した合理主義的建築。近代における建築的環境を様々な面から科学的に捉えなおして、アカデミズムの建築（様式主義）に反対し、機能の優先性を主張したので、一に機能主義ともいう。

鉄、セメント、ガラスを近代建築の３大材料というが、造形的には幾何学に根拠を置いた無機的、抽象的な表現を特徴とし、「機能的なものは美しい。」というテーゼが生まれた。

10、20年代前半では、主情主義的なドイツ表現派、アムステルダム派、合理主義的な純粋主義（=PURISM・Le Corbusier)、BAUHAUS（W.Gropius、M.v.d.Rohe等)、両者の性格が相半ばするイタリアの未来派（=FUTURISM・G.Terragni等)、ソヴィエト構成主義（=CONSTRUCTIVISM・Tatlin等)、アメリカの有機的建築（=ORGANIC ARCHITECTURE・F.L.Wright）等多様なものが混在したが、20年代後半には整理されて、合理主義的な方向が主流になり、近代建築が確立され、今日におよんでいる。

15．ポストモダニズム建築
(POSTMODERNISM ARCHITECTURE)

1960年代は近代建築の曲がり角であった。モダニズムの禁欲的で無味乾燥な表現に対する抵抗の建築が注目されはじめた時期である。このような流れは、常に伏流としてはあったものであるが、それが表に見え隠れしはじめた時期である。P.ジョンソンの古典的なものへの回帰や、H.ホラインのレッティ・蠟燭店（1965年・ウイーン）等に象徴される。

建築にポストモダニズムの概念を導入したC.ジェンクスは、モダニズムの終焉を1972年７月15日・セントルイスにおけるプルーイット・アイゴー団地（1952〜55、設計ミノル・ヤマサキ）爆破の時と象徴的に指摘している。

70年代に入って、様々な試みのうちに多様な表現が開発され、80年代には、まさに玉石混淆して百花繚乱の有様を呈した。

（澤登）

正式国名：イタリア共和国
英語名：Republic of Italy
首都：ローマ（Roma）
人口：5,739万人（87年）
面積：301,000㎢（日本の約８割）
言語：イタリア語
宗教：90%以上がローマンカトリック
通貨：イタリア・リラ（Lira）Lit 1.00=100 Centesimi

自　然 イタリアの国土は、北西から南東にわたって1,200km地中海に長靴型に伸びた半島と、その爪先にあたるシチリア島、サルデニア島などからなる。半島の中央をアペニン山脈が走り、北部のアルプス山脈から流れるポー川の流域には、ロンバルジア平原があり、国土の約９割が農地又は森林地である。大陸部は内陸性気候で、南に下るほど地中海性気候となり、全般的にはアルプスが自然の防壁となって、比較的温暖である。

言　葉 観光地のホテルや土産物店の人達には英語、フランス語はかなり通じる。最近ではホテルなどで片言の日本語のあいさつをするスタッフがいる所があるほど、一般にイタリア人は親切で、人なつっこい国民性を持っている。

電　気 220V、50ヘルツでソケットは丸型。

国際電話 日本へ：00　＋　81（日本の国番号）　＋　市外局番（最初の０をとる）　＋　相手の電話番号

最近は回線が良くなり殆どの３星以上のホテルでは部屋から直接国際電話が可能。

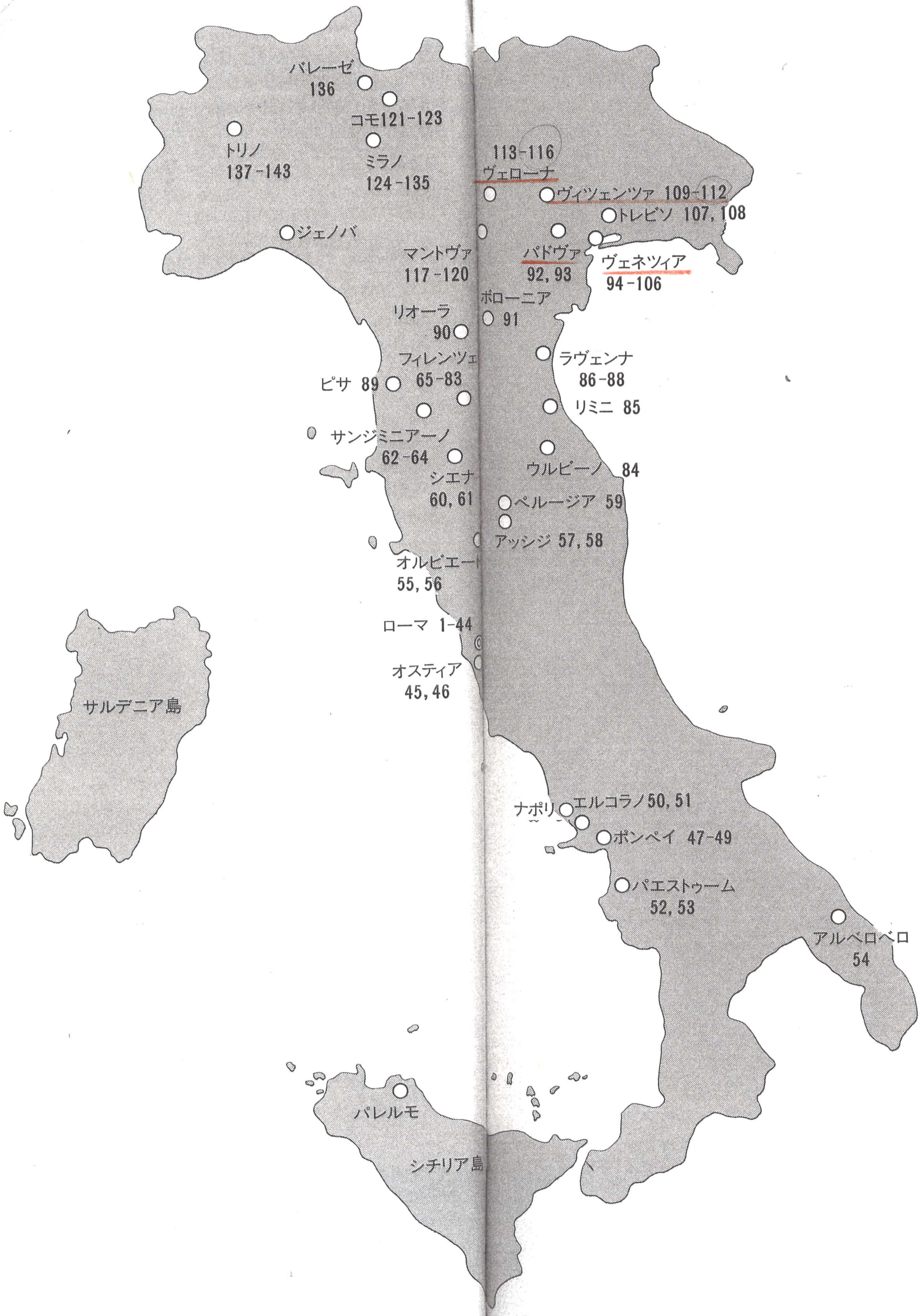
服　装 日本との違いは夏乾燥し、冬に比較的雨が多い。その為に真夏でも夜は涼しい時があるので、カーディガン類などを１枚持参すること。

ビジネス・アワー 銀行：8:30ー13:30（土、日、祭日は休み）。商店は都市によって違うが、平日：9:00ー13:00／16:00ー20:00、夏は土曜午後と日曜、それ以外は日曜と月曜の午前が定休で、シエスタという昼休みが長い習慣がある。但し最近では、ローマ、ミラノ等の都市では昼休みをとらない店も増えている。

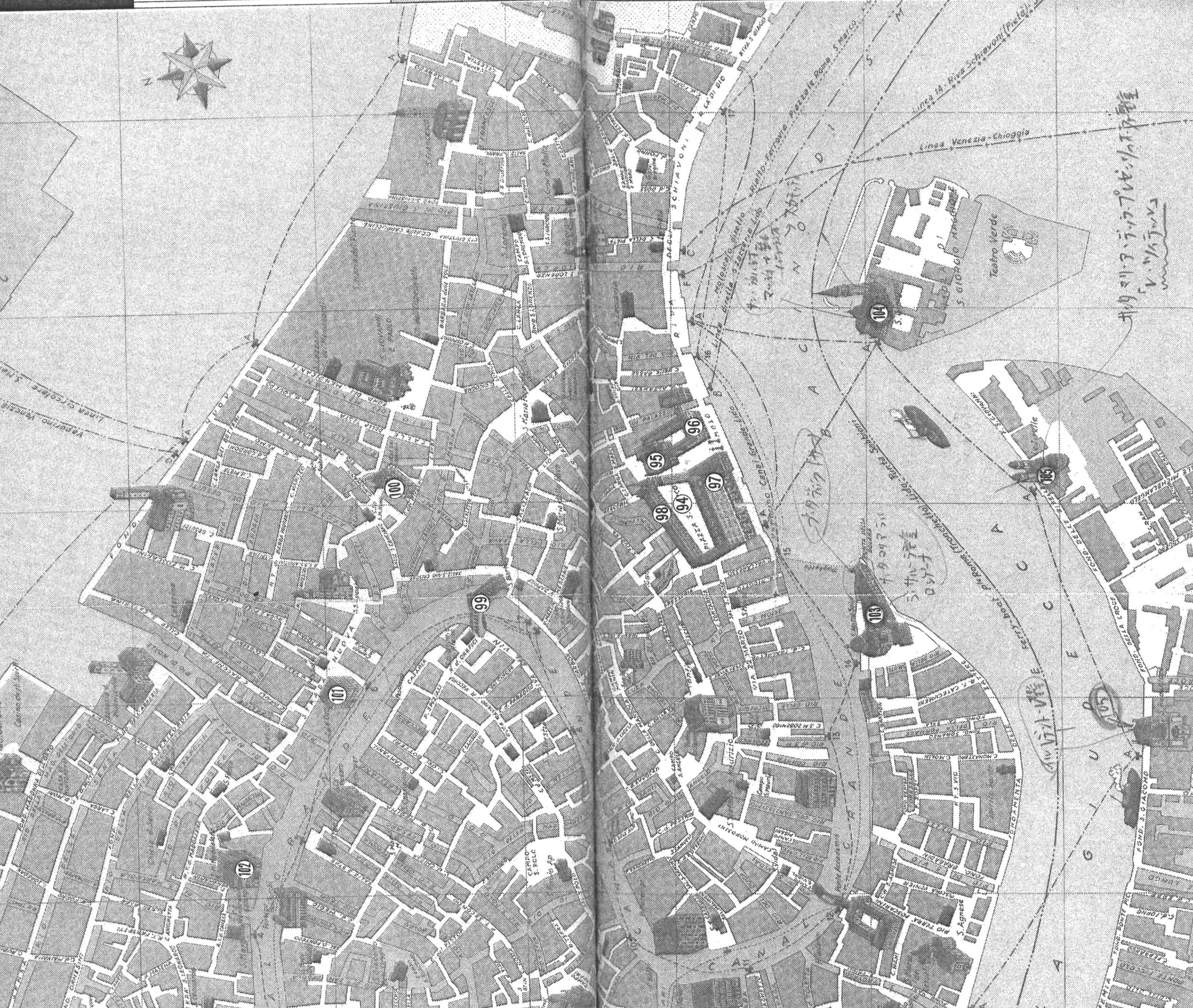
査証(VISA) 観光不要（３カ月以内）

その他 国内にバチカン市国を抱くということもあり、宗教はイタリア文化に多大な影響を及ぼしている。又、日本文化への関心も高く、日伊両国の文化交流は活発である。

〈補足〉 バチカン市国（Vatican City State）は古代ローマの７丘の１つで、サン・ピエトロ寺院を中心とした世界最小の独立国であり、1929年イタリア政府と法皇庁とのラテラノ協定により成立した宗教国家。世界中で８億人以上の信徒をもつカトリック総本山である。

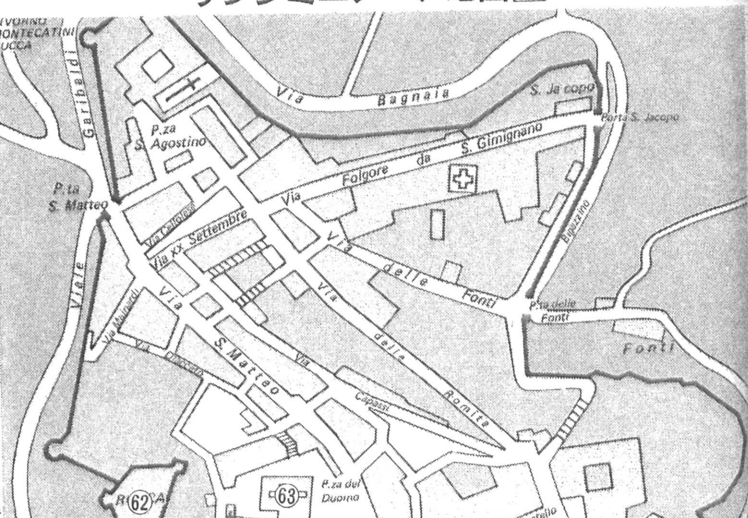

バレーゼ 136
コモ121-123
トリノ 137-143
ミラノ 124-135
113-116 ヴェローナ
ヴィツェンツァ 109-112
トレビソ 107,108
ジェノバ
マントヴァ 117-120
パドヴァ 92,93
ヴェネツィア 94-106
ボローニア 91
リオーラ 90
フィレンツェ 65-83
ラヴェンナ 86-88
ピサ 89
リミニ 85
サンジミニアーノ 62-64
ウルビーノ 84
シエナ 60,61
ペルージア 59
アッシジ 57,58
オルビエート 55,56
ローマ 1-44
オスティア 45,46
サルデニア島
ナポリ
エルコラノ 50,51
ポンペイ 47-49
パエストゥーム 52,53
アルベロベロ 54
パレルモ
シチリア島

地図 5 ヴェネツィア市内地図 イタリア



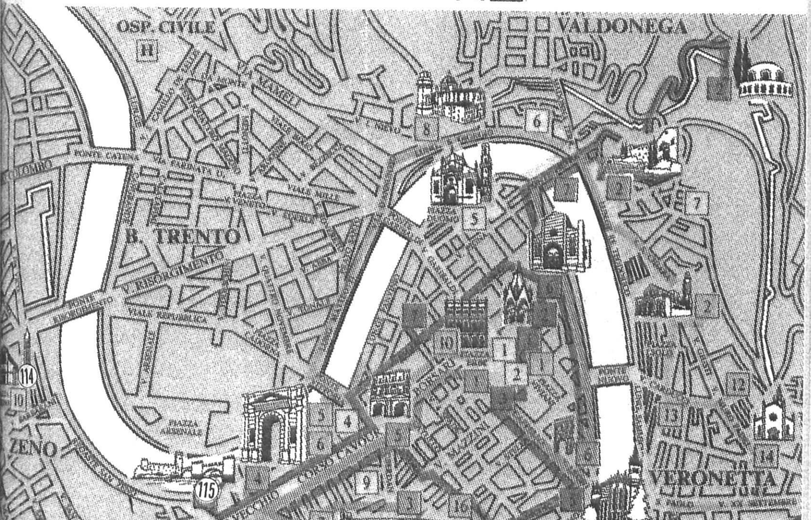
シエナ地図 8

サンジミニアーノ地図 9

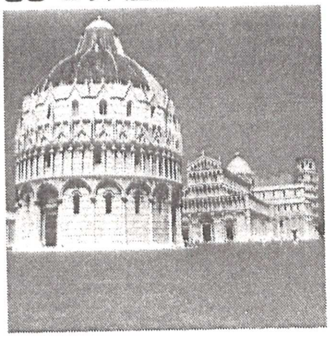


ビツェンツァ地図 10

ヴェローナ地図 11



89 ピサ大聖堂



Ⓐ Duomo ☆☆
Ⓑ ――
Ⓒ 1063-1118年
Ⓓ Pisa

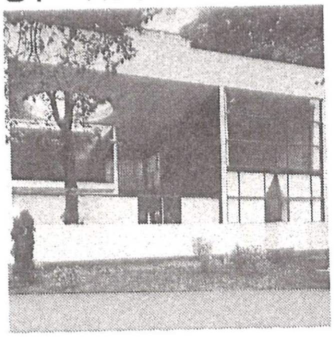
イタリアロマネスクのバジリカ式教会の代表作。西正面は円柱によるアーケードを4層に重ねた特色のあるデザインで、洗礼堂、鐘塔にもこのモチーフは繰返され、統一感を創っている。そしてルッカ大聖堂等近隣地域にも影響を与えた。（山中）

90 リオーラ教区センター

Ⓐ Riola Parrocchiàle Centro ★
Ⓑ Alvar Aalto
Ⓒ 1978年
Ⓓ Riola（Bologna 南西約40km）

アアルトの晩年の作品。教会の形は非対称形のヴォールトを持った、変形をしたバジリカであり、ヴォールトを通して光が祭壇に向って差し込んでくる白い内部空間は清らかである。教会の前面の壁は解放され、前庭と一体として使われる。（富永）

91 エスプリヌーボー館



Ⓐ Esprit Nouveau pavilion
Ⓑ Le Corbusier
Ⓒ 1977年復元
Ⓓ Bologna, Fiera（Firenze の北約80km）

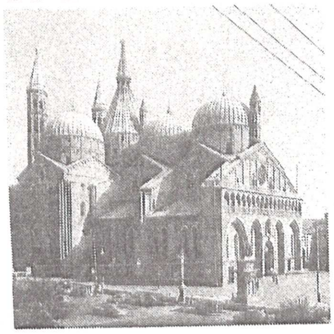
1922年に計画された集合住宅（イムーブル・ヴイラ）の一住戸のプロトタイプ。パリで開かれた国際装飾芸術博覧会の展示として実施された。当時の近代精神による工業製品や絵画が室内に置かれた。近年、再建された。（富永）

92 パドヴァの市街

Ⓐ Padova
Ⓑ ――
Ⓒ B.C. 5世紀-
Ⓓ Padova（Venezia の西38km）

イタリア東北部、ヴェネト地方の主都。丘陵を背景にした町の周囲を運河がめぐる。ローマ時代に最も繁栄した都市の一つで、13世紀の聖アントニオ教会、ダンテが学んだパドヴァ大学、16世紀創設の植物園など史蹟建築物が多い。（池）

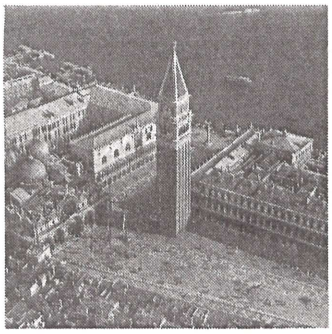
93 聖アントニウス聖堂



Ⓐ Basilica del Santo
Ⓑ ――
Ⓒ 13世紀
Ⓑ Via San Francesco, Padova

パドヴァの保護聖人アントニウスの墓がある聖堂。直線的表現の柱形・控壁・切妻屋根で構成されるロマネスク調の煉瓦造下部、その上部の七つのビザンチン式円蓋と屹立する二つの六角形の鐘塔（カンパニーレ）によって特徴づけられる。（池）

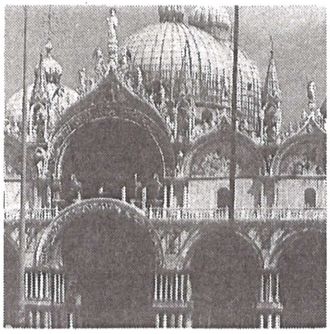
94 サン・マルコ広場



Ⓐ Piazza S.Marco ☆☆
Ⓑ ――
Ⓒ 9世紀-19世紀
Ⓓ Piazza S.Marco

鍵型の広場で、一方が海に面する。かっては海運都市の表玄関に相当した。周囲には、サン・マルコ寺院、総督邸、図書館、行政館が建ち、広場の鉤の手の位置に鐘楼（高96.8m）が聳え、広場と建築の組合せは劇的な効果をつくりだしている。（鈴木）

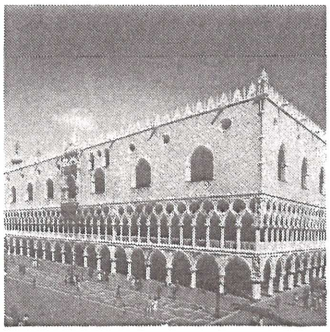
95 サン・マルコ寺院



Ⓐ S.Marco ☆☆
Ⓑ ――
Ⓒ 11世紀
Ⓓ Piazza S.Marco

9世紀、聖マルコの遺体を祭るため創建された。現建物は11世紀に再建されたもので、ビザンチン様式の代表的建築。ギリシア十字形平面の中央と軸線上に5個のドームが配される。天窓からの光によって金色の内部は荘厳に輝いている。（鈴木）

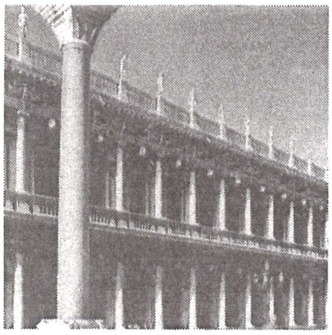
96 パラッツォ・ドゥカーレ



Ⓐ Palazzo Ducale ☆
Ⓑ ――
Ⓒ 14-17世紀
Ⓓ Piazza S.Marco

総督邸で、サン・マルコ寺院の南側に隣接する。外観はゴシック様式による3層構成で、1層はアーチ型柱廊、2層は柱間の小さいアーチとその間に円窓のあるギャラリー、3層は白とピンクの大理石によるモザイク模様の軽快な壁面。（鈴木）

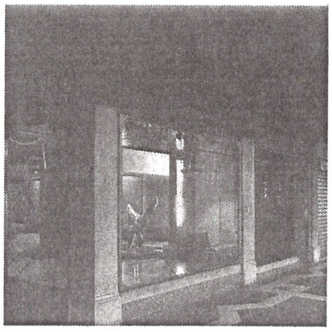
97 サン・マルコ図書館



Ⓐ Liberia Vecchia, S. Marco ☆
Ⓑ Jacopo Sansovino
Ⓒ 1537-1588年
Ⓓ Piazza S.Marco

サンソヴィーノ代表作。サン・マルコ広場の景観を整える重要な建物であり、ファサードは2層構成、下層がドリス式、上層がイオニア式である。半円柱とアーチに囲まれた部分の彫りの深い陰影が、壮麗な彫塑性をもたらしている。（鈴木）

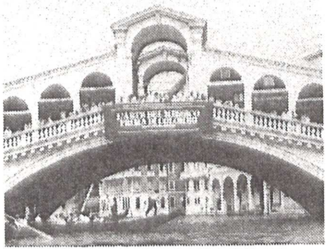
98 オリベッティのショールーム



Ⓐ Olivetti Show room
Ⓑ Carlo Scarpa
Ⓒ 1957-1958年
Ⓓ Piazza S.Marco

ヴェネツィアの最も有名で美しいサンマルコ広場に面し、密度の高いディテールと空間単位と結びつけてゆく様々な手法が駆使され、小店舗ながら、見ごたえのある豊かな作品である。スカルパの出世作といわれている。（富永）

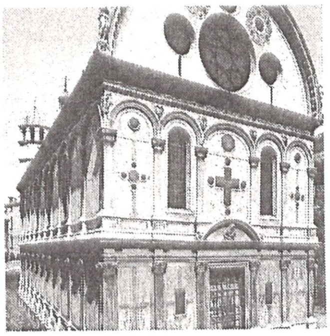
99 リアルト橋



Ⓐ Ponte di Rialto
Ⓑ Antonio da Ponte
Ⓒ 1587-1591年
Ⓓ Canal Grande

大運河に架かり、ヴェネツィアで最も美しい橋といわれる。アーチ上の左右にそれぞれ六つのベイからなるアーケードが乗り、小さなアーチが斜めに連続する。水路の大きなアーチとアーケードの斜めの線が力の自然な流れを示している。　（鈴木）

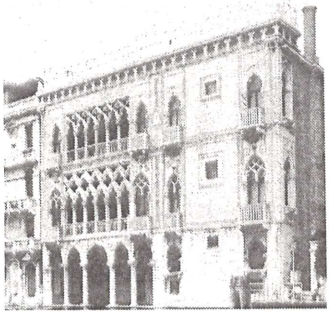
100 サンタ・マリア・ディ・ミラコリ



Ⓐ Sta. Maria dei Miracoli
Ⓑ Pietro Lambardo
Ⓒ 1489年
Ⓓ Calle dei Miracoli

ヴェネツィアの代表的な初期ルネッサンス建築。外観は壁面が2層構成、屋根が半円筒型で、ペディメントが半円形。内部はヴォールト天井。比例関係からいえばバランスを欠くが、古典的モチーフと多彩な色大理石で、装飾性が映える。　（鈴木）

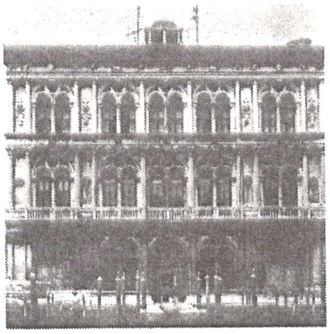
101 カ・ドロ



Ⓐ Ca'd'Oro
Ⓑ G. and B. Bon
Ⓒ 1421-1440年
Ⓓ Canal Grande, Strada Nuova
（大運河沿い）

後期ゴシックの装飾性とビザンチン・イスラムの装飾性が結合したヴェネツィア・ゴシックの代表的建築。カ・ドロとは黄金邸という意味で、当初、運河に面した正面の1階アーケード、2・3階のギャラリーが金色に塗られていた。　（鈴木）

102 パラッツォ・ヴェンドラミニ



Ⓐ Palazzo Vendramini　☆
Ⓑ Pietro Lombardo, Mario Coducci
Ⓒ 1509年
Ⓓ Canal Grande, Calle dell'Aseo
（大運河沿い）

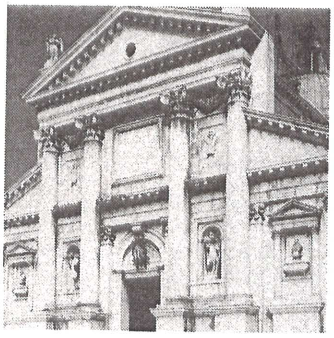
大運河に面し、ヴェネツィアの代表的なパラッツォである。2階には運河に向かって開放的な広間が配され、その左右に部屋を並べている。ファサードには2連窓や円柱形バラスターの中世的要素がある一方、華麗な装飾がみられる。　（鈴木）

103 サンタ・マリア・デル ラ・サルーテ聖堂

Ⓐ Sta. Maria della Salute　☆
Ⓑ Baldassare Longhena
Ⓒ 1631-1687年
Ⓓ Fondamenta delle Zaterre

ヴェネチィア・バロックを代表する建築である。八角形の平面をなし、直径約20mの中央部を8本のコリント式円柱で囲う。周囲の周歩廊が半円アーチでつないだピアによってつくられ、その外側に玄関、6個のチャペル、内陣が配される。　（鈴木）

104 サン・ジョルジオ・マッジョーレ聖堂



Ⓐ S. Giorgio Maggiore　☆
Ⓑ Andrea Palladio
Ⓒ 1566-1580年
Ⓓ Isola di S. G. Maggiore

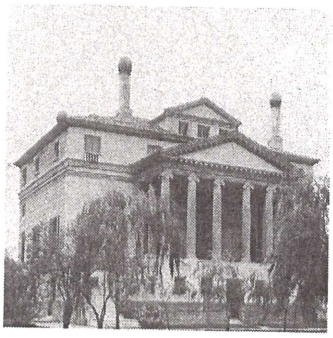
パラディオの代表作。内部は大きく三つの部分に分かれ、正面側がバシリカ形式の外陣、その奥に正方形平面の内陣、さらに奥に馬蹄形平面の聖歌隊席を配する。内壁は白いスタッコで仕上げられ、光の溢れた明るい内部空間を呈している。（鈴木）

105 イル・レディントーレ聖堂

Ⓐ Il Redentore　☆
Ⓑ Andrea Palladio
Ⓒ 1577-1592年
Ⓓ Fondamenta S. Giacomo

古代神殿風のファサードに、大小二つのペディメントが組み合わされている。内部は身廊、ドームの大主教席、奥の聖歌席という構成で、集中式と長堂式を明確な分節のもとに全体を統一し、透視図法的な効果を巧みにつくりだしている。　（鈴木）

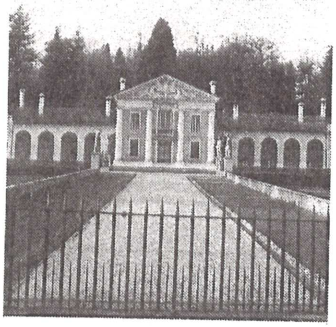
106 ヴィラ・フォスカリ



Ⓐ Villa Foscari
Ⓑ Andrea Palladio
Ⓒ 1559-1560年
Ⓓ Gambarare di Mira, Malcontenta

郊外の運河沿いに建つ。平面は十字形で、河沿いの立面は1階を基壇とし、上に神殿風のポーティコが乗る。反対側はペディメントを有する石積みの壁面に、アーチを形取った窓や四角い窓が穿たれ、アノニマス的傾向をよく示している。　（鈴木）

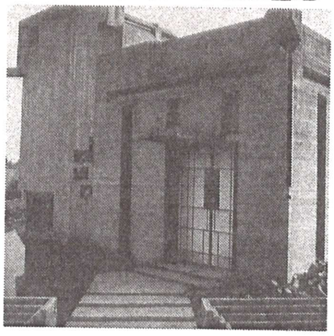
107 ヴィラ・バルバロ



Ⓐ Villa Barbaro　☆
Ⓑ Andrea Palladio
Ⓒ 1557-1558年
Ⓓ Maser, Treviso（Venezia の北約20km）

パラディオの典型的なヴィラ建築。イオニア式オーダーからなる神殿風の主屋を中央に、バルケッサと呼ばれる柱廊を左右に配する。ヴェネツィアの貴族で、ウィトルウィウスの『建築書』の註解を行ったバルバロ兄弟のために設計された。　（鈴木）

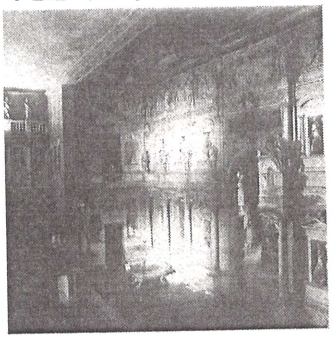
108 ブリオン・ヴェガ墓地



Ⓐ Brion-Vega　★
Ⓑ Carlo Scarpa
Ⓒ 1970-1972年
Ⓓ S. Vito, Treviso

イタリアの実業界で財をなした電機会社、ブリオン家の廟。路地、待合、墓、礼拝堂などの小建築群が東洋の庭園を思わせる方式で配置され、不思議な魅惑をたたえた、密度の高い作品となっている。スカルパ自身の墓もここにある。　（富永）

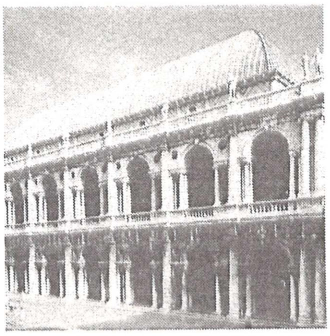
109 テアトロ・オリンピコ



Ⓐ Teatro Olimpico
Ⓑ Andrea Palladio
Ⓒ 1580-1584年
Ⓓ Piazza Matteotti, Vicenza
(Venézian の西30km)

ウィトルウィウスの建築十書に基づく古代ローマ劇場の、パラディオ自身の解釈に基づく再興である。遠近法によって構築された舞台背景は観客に対して深い奥行感をつくり出し、後世の舞台設計に影響を及ぼした。現在も使用されている。　(富永)

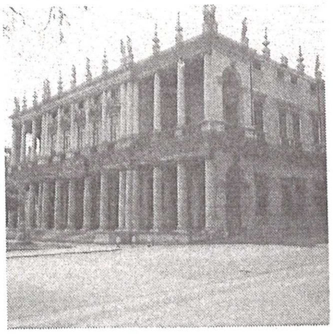
110 バジリカ



Ⓐ Basilica　☆☆
Ⓑ Andrea Palladio
Ⓒ 1549-1614年
Ⓓ Piazza dei Signori, Vicenza

中世の市庁舎ホールにパラディオは2層のアーケードを付加した。アーケードは上下階とも石造の交叉ボォールト天井を架け、各柱間はパラディアンモチーフを形づくる。既存のヴォールト屋根の膨れる輪郭と見事な対比を見せている。　(富永)

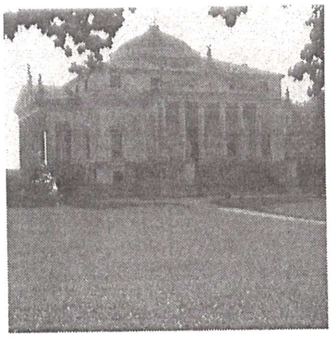
111 パラッツォ・キエリカーティ



Ⓐ Palazzo Chiericati
Ⓑ Andrea Palladio
Ⓒ 1558-1580年
Ⓓ Piazza Matteotti, Vicenza

パラディオはこの邸宅を古代広場の歩廊にならって中央がわずかに突出する2層のコロネードを持つものとして計画した。実際には中央部が壁でふさがれ、開放的なロッジアと壁の対照という彼の重要なテーマがここに結晶することになる。(富永)

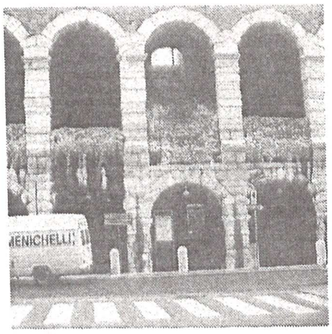
112 ヴィラ・カプラ (ロトンダ)



Ⓐ Villa Capra (Rotonda)　☆☆
Ⓑ Andrea Palladio
Ⓒ 1552年
Ⓓ Via dei Nani 付近(Vicenza 郊外)

小高い丘の上に建てられ、その幾何学的ヴォリュームは周囲の自然と呼応しあっている。パラディオの古典的世界の調和への理想を最も完璧な形で示したヴィラ。正方形平面は完全に対称形に分割され、中央部にはドームを頂いている。　(富永)

113 円形劇場



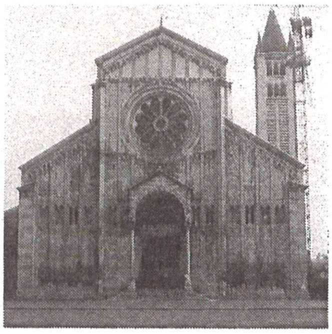
Ⓐ Amphitheatrum　☆
Ⓑ ——
Ⓒ 290年
Ⓓ Piazza Brà, Verona
(Venezia の西約110km)

ローマ時代円形劇場は主な植民市毎に建てられたがヴェロナのものは非常に保存がよく、約25000人収容の観客席のほとんどがほぼ完全な形で残っている。平面は楕円形で、格闘場であったが、現在は夏にオペラ劇場として使われている。　(富永)

114 サン・ツェーノ・マッジョーレ聖堂

Ⓐ S. Zeno Maggiore　☆
Ⓑ ——
Ⓒ 1117-1138年、13世紀完成
Ⓓ Piazza S. Zeno, Verona

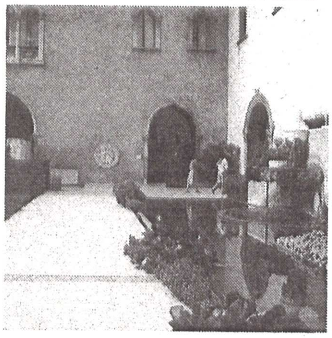
イタリア的な平面を持つ単純な会堂であるが、後方に立つ方形の独立鐘等と釣合って謙虚な美しい作品である。外部正面はバラ窓とポーチを持つ、単純な構成であるが洗練された帯状の付柱によって壁面の効果をよく生かしている。　(富永)



115 カステルヴェッキオ美術館

Ⓐ Museo d'Art, Castelvecchio　★
Ⓑ Carlo Scarpa
Ⓒ 1964年
Ⓓ Carso Castelvecchio, Verona

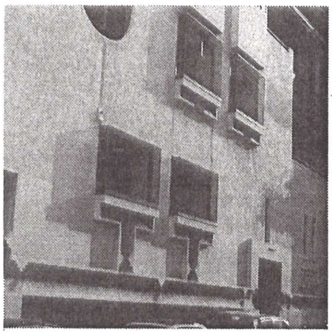
14C につくられた城の廃墟を復旧し、現代的な香りのする威厳のある密度の高い美術館の空間をスカルパは現出させた。過去をしのばせるのに有効なものを保存しながら、工芸的な精密さによって斬新な形を導入し、結び合せている。　(富永)



116 ヴェローナ庶民銀行

Ⓐ Banca Popolare di Verona
Ⓑ Carlo Scarpa
Ⓒ 1973年
Ⓓ Verona (Venèzia の西方約110km)

スカルパの晩年の代表作。大理石、金属、木材等を精密に組み合せながら見事に気品のある空間を生み出した。町中の交通量の多い通りに向かって建てられているが、内部は数多くの巧妙なディテールの散在する静寂な空間が支配している。　(富永)



117 サンタンドレア聖堂

Ⓐ Sant'Andrea　☆
Ⓑ Leon Battista Alberti
Ⓒ 1470-1512年
Ⓓ Piazza Marconi, Mantova
(Mirano の東約130km)

基壇の上に載った三廊式バジリカの側廊にあたる部分を小祭堂に利用した単廊会堂で、この平面形式は後のイタリア会堂に好んで用いられた形式の先駆である。正面の凱旋門のモチーフは雄大であり、内部の空間は強く統一されている。　(富永)

118 サン・セバスチアーノ聖堂

Ⓐ S. Sebastiano　☆
Ⓑ Leon Battista Alberti
Ⓒ 1459年
Ⓓ Via G. Acerbi, Mantova

古代神殿を研究し、それを新しく解釈し直そうとしたアルベルティ中期の作品。整数比例によって構成された道路側のファサードは古典的であるが、エンタブレチュアは中央で分断され、緊張感が導きこまれている。　(富永)